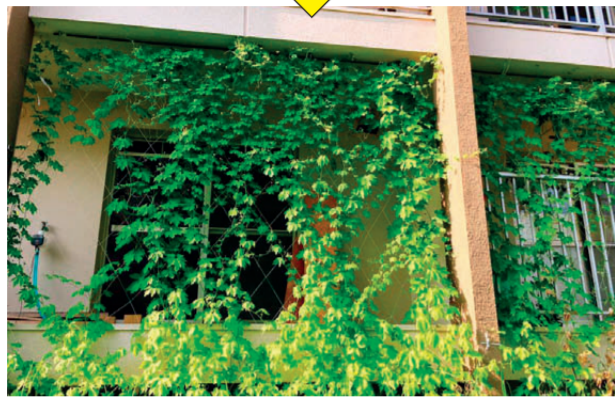


※1 網戸の貼り換え

入居者さんに快適な暮らしのつくり方を気軽に体感してもらえるような、参加型イベントの第一弾。古い網戸は破れたり汚れたりしても、自分たちで張り替える人は少ない。そこで、「一緒に網戸を張り替えよう」というワークショップを実施。参加者からは「楽しかった」「視界が広がった」との感想をいただいた。



※2 緑のカーテン

ベランダが広いコーポ江戸屋敷。「夏に向けてこのベランダにゴーヤーを植えて、緑のカーテンを作りませんか?」という呼びかけを行った。参加者からも好評で、ゴーヤーの収穫祭も盛況。取り組み2年目の今年は、私たちが企画するより先にすすんでゴーヤーを育てる入居者さんも。

※3 DIY *** 賃貸

「ものづくりのまち」久留米らしく、セルフリノベOK(配管や設備など専門的知識と技術が必要な部分以外)の部屋を1部屋限定で企画。しかし、住みながらのセルフリノベはハードルが高い。そこで「この部屋に住みたい!」という運命の人が現れるまで、ワンステップずつ部屋を完成に近づけていくワークショップを取り入れた。少しずつDIYのハードルが下がり、部屋のイメージが見えてきたら、「ここなら自分でもセルフリノベができそう!」と手を挙げる入居者が現れるのでは?と期待を込めて実験継続中だ。ちなみに、ワークショップは毎回10名前後の参加者で実施。半田兄弟や地元の職人の指導のもと、DIYリノベの技術や知識を得られる上に、部屋づくりのステップを一段ずつ体験できるとあって好評を得ている。

ENJOY! "DANCHI" LIFE!

「部屋の中を変えるだけではだめだ。団地の良さって何か、一から考え直してみよう」。2016年、私たちは「コミュニティデザインカレッジ」を開催。建築・まちづくりのプロデューサーで株式会社チームネットの代表・甲斐徹郎氏を招いて「団地のコミュニティ」というテーマの勉強会を開いた。

この会で私たちは団地の重要な価値に気付いた。それは、「敷地の中にいる楽しそうな人々の姿」だ。広場で遊ぶ子どもたち。買い物途中や仕事帰りにあいきつる交わすご近所さん……住んでいる部屋は別々だけど、若者も高齢者も、一人暮らしもファミリーも、みんながひとつの団地の中でゆるやかにつながり合っている。安心して暮らしている。そんな「楽しそうな景色」こそ、私たちが創っていくべきものではないか。目を

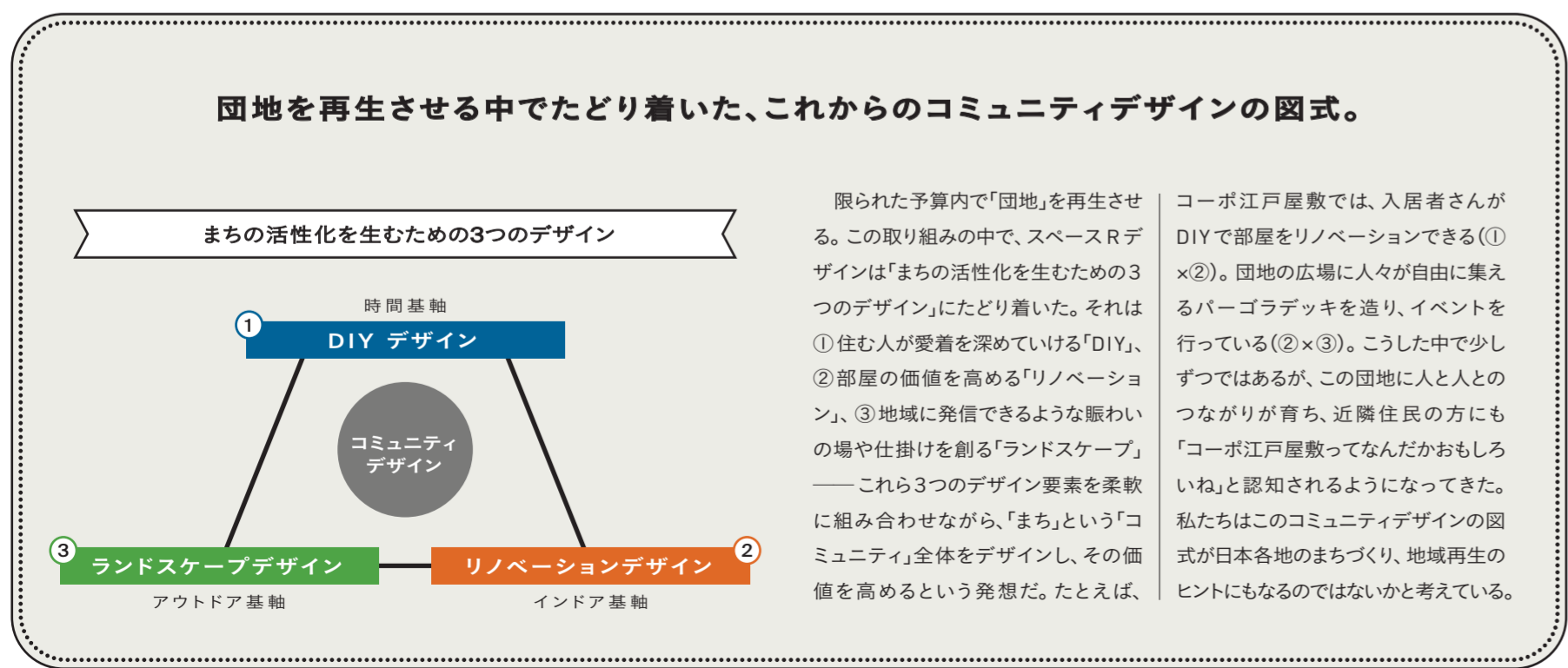
私たちは再び挑戦を始めた。取り組むのキートンとなったのは、先の勉強会で学んだ「コミュニティベネフィット」という考えだ。住んでいる人にとって暮らす上での「ベネフィット(利益)」の接点は何か。住まいにおいてそれは、他でもない「快適さ」だ。そこで、まず各々の部屋で「快適さ」を体感してもらうために、入居者参加型イベント(※1)を実施したり、自然エネルギーを利用する「パッシブデザイン」の身近なものとして緑のカーテン(※2)を取り入れたりと、「快適な暮らし」を共感してもらうことから始めた。合わせて「エレベーターを定期発行し、「快適な暮らし」への取り組みを入居者さんへ紹介している。また、先の勉強会を機に地元の職人チーム「VOICE」が結成され、100号棟の一角に職人

向けるべきは部屋の中ではなく、外にあったのだ。住んでいる誰もが喜びを共有できるように。

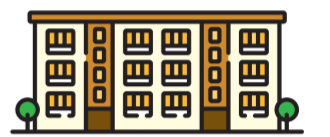


私たちは「スペースRデザイン」は福岡市博多区の冷泉荘をはじめ、様々な「ビンテージビル」のプロデュースを手がけてきた会社だ。建物の耐震性や部屋の状態などを調査し、コーポ江戸屋敷には再生の可能性があるかと判断。2015年に私たち「スペースRデザイン」は団地再生の役目を担うことになった。

私たちは早速、いくつかの空き部屋のリノベーションに取り掛かった。「築後の人々による、築後のリノベーション」によってこの建物を再生しようと考え、久留米市でDIYによる賃貸物件のリノベーションを手掛ける「合同会社 H&A brothers」の半田兄弟に協力を仰ぎながら、現代のライフスタイルに合うよう内装を整え始めた。



コーポ江戸屋敷 特集



FUTURE AND PAST OF CORPO EDOYASHIKI

「古い」ものから「新しい」価値を育てる。 これまでと、これから。 コーポ江戸屋敷

最近、全国の団地が少しずつ変わり始めている。というのも、高度経済成長期の人口増加と核家族化に伴い全国に建てられた団地は、時代とともに老朽化。入居者の高齢化が進み、子どもは減り、いつしか敷地内ひとりの気配がなくなってきた。そんなものの寂しい団地が増えつつあるからだ。

しかし、団地は新しい時代に新しい形で生まれ変わるようになっていく。われらがコーポ江戸屋敷もそのひとつだ。再生への道はまだ始まったばかり。スタート地点に立つまでの奮闘をぜひお読みいただきたい。

ゆったりと年を重ねてきたコーポ江戸屋敷のこれまで。コーポ江戸屋敷は1978年9月生まれ。個人のオーナーによって建てられた、3棟の住居棟からなる小さな団地だ。4階建ての各棟には2LDK(約60㎡)の部屋が16戸ずつ入っており、ファミリー向けに建てられた物件であったことがうかがえる。

私たち「スペースRデザイン」は福岡市博多区の冷泉荘をはじめ、様々な「ビンテージビル」のプロデュースを手がけてきた会社だ。建物の耐震性や部屋の状態などを調査し、コーポ江戸屋敷には再生の可能性があるかと判断。2015年に私たち「スペースRデザイン」は団地再生の役目を担うことになった。

しかし、前オーナーには不安があった。「このままだとこも他の団地のように、いつか住み手がいなくなるのではないか」。そして2014年、前オーナーから「スペースRデザイン」に、コーポ江戸屋敷というパトンを託した

私たちが早速、いくつかの空き部屋のリノベーションに取り掛かった。「築後の人々による、築後のリノベーション」によってこの建物を再生しようと考え、久留米市でDIYによる賃貸物件のリノベーションを手掛ける「合同会社 H&A brothers」の半田兄弟に協力を仰ぎながら、現代のライフスタイルに合うよう内装を整え始めた。



2016年に開催した「コミュニティデザインカレッジ」の様子。県内外から参加者が集まった。



Drawing By Marumi Miyashita, space R design